

平成27年度 協働による環境学習推進事業(岡山県)



第3回

# おかやま環境教育ミーティング

～つながるひろがる 環境教育の輪～

報告書



おかやま環境教育ミーティング実行委員会

## 第3回 おかやま環境教育ミーティング －つながるひろがる 環境教育の輪－

日時：平成27年8月18日（火）10:00～17:00

会場：岡山コンベンションセンター 1F イベントホール

参加者：159名（一般参加者136名、実行委員・スタッフ23名）

ブース出展：37団体

基調講演： 濑澤 寿一 氏（認定NPO法人 共存の森ネットワーク 理事長）

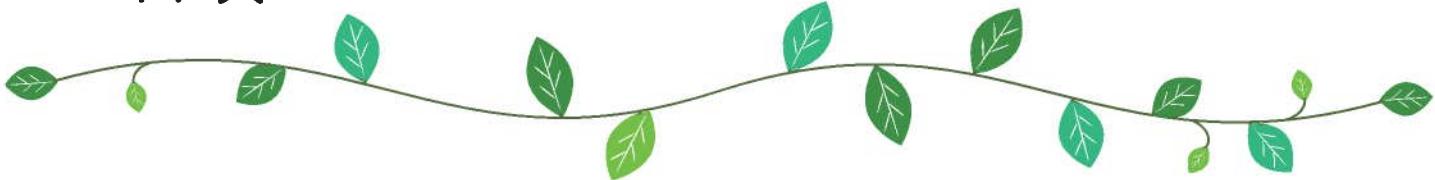
コーディネーター：志賀 誠司 氏（人間科学研究所 所長）

協働による環境教育の輪を広げる  
きっかけづくりを目指します！

環境教育に関心のある学校、企業、行政、NPOや環境団体等の方々が集い、  
お互いの活動、実践事例紹介や参加して交流するスタイルのミーティングを通して、環境教育に関わる人たちがこれまで出会っていなかった人・  
団体と知り合い、つながり、協働するきっかけの場をつくりました。



# 目次



## <内容・スケジュール>

10:00	開会あいさつ	3
	おかやま環境教育ミーティング実行委員会 委員長 小桐 登	
10:07	オリエンテーション かんきょうひろば事務局	
10:15	基調講演	4
	「協働による環境教育の可能性～聞き書き甲子園の試み～」	
	認定NPO法人 共存の森ネットワーク 理事長 濵澤 寿一 氏	
11:00	知り合う時間	6
	コーディネーター：人間科学研究所 所長 志賀 誠司 氏	
12:00	昼休み（協働ミーティングのテーマ募集）	7
12:45	おかやまエコスクール表彰式	
13:00	ブース出展（活動・学習プログラムの紹介・体験）	
14:40	協働ミーティング	9
	コーディネーター：人間科学研究所 所長 志賀 誠司 氏	
	①オリエンテーション・テーマ発表・グループ分け	
	②グループ別ワークショップ	
	③全体共有	
16:50	全体ふりかえり・アンケート	20
17:00	閉会挨拶	
	岡山県環境文化部 新エネルギー・温暖化対策室 室長 片山 圭子	
	<参加者の声>	21

## 10:00 開会あいさつ

おかやま環境教育ミーティング実行委員会 委員長 小桐 登

- ・今回で3回目を迎えるミーティング。
- ・学校、企業、行政、NPOや環境団体の方々が一堂に会し、協働による環境教育の輪を広げるきっかけとなるための「出会いの場の創造」。テーマも「つながる ひろがる 環境教育の輪」。
- ・私事、先週1時間に77mmという豪雨を経験。実家が危うく床下浸水となりかけ、必死に水を掻き出すという貴重な経験。身を持って自然の脅威を実感。
- ・自然の前には、人間は無力に近い存在。それだけに自然と共生できる環境への働きかけや行動を意識し、持続可能な社会を築いていく必要がある。
- 大切なのは、『気づきと行動』。
- ・このミーティングは参加者全員で作り上げていくもの。  
今日は皆様の人生で最良の出会いの日に。
- ・皆様と一緒に決意の言葉を合唱したいと思います。  
『つながるぞー ひろがるぞー 協働するぞー』  
ありがとうございました。今日1日宜しくお願いします。



## 10:07 オリエンテーション かんきょうひろばの説明

環境学習に関する交流・情報共有、出前講座、指導者養成、企画提案を行っている。  
今日のミーティングを機会に「かんきょうひろば」へ参加登録をお願いしたい。

【司会 田中副委員長(左)、開会あいさつ及び趣旨説明 小桐委員長(中央)、ひろば説明 事務局(右)】



【イベントホール 準備・受付開始・名札作り】



## 10：15 基調講演「協働による環境教育の可能性～聞き書き甲子園の試み～」

認定NPO法人 共存の森ネットワーク 理事長 濵澤 寿一 氏

### ＜聞き書き甲子園の取組み＞

- ・毎年 100 人の高校生が、森、川、海とともに生きてきた 100 人の名人（おじいちゃん、おばあちゃん）と出会い、知恵や技、生き方、価値観を「聞き書き」し、記録する活動（14 年目）
- ・「聞き書き」とは自分を相手に重ねる作業（しかし言葉が通じない（方言や意味の違い））
- ・五感や体験によって言葉の下にあるものを理解する



### ＜時代の変化＞

- ・今から約 50 年前 (1960～1965) の高度経済成長期を境に暮らしが変化し、日本は全く違う国に
- ・農村中心（生きる=働く）⇨都会中心（生きる=お金のため）
- ・現在の暮らしは繁栄したが持続可能なのか？

### ＜関係性の喪失「無縁社会」という現実＞

- ・人と人の関係性：孤立社会、貧情報社会
- ・人と自然の関係性：生産と消費の分離、命の臍の緒はどこにつながる
- ・世代を超えた関係性：世代間の伝承途絶、これから生まれる世代への無配慮、無関心
- ・生きている自分と神性の自分の関係性：自分を見つめる努力の放棄

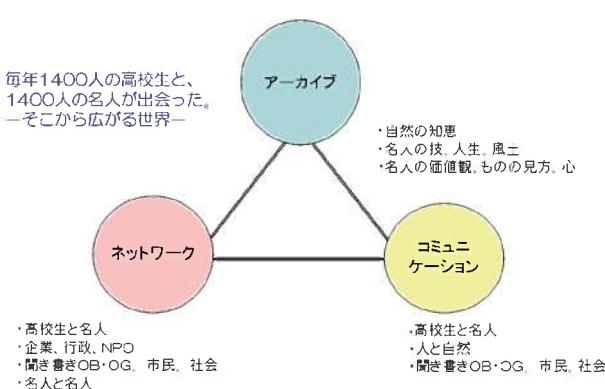
### ＜聞き書き甲子園事業の仕組み＞

- ・行政、企業、NPO が同じ目的を持って協働（コラボレーション）

### ＜聞き書きとは＞

- ・話し手との会話の中から話し手の一人語りの文章としてまとめること
- ・そこに生きた人の一生を浮かび上がらせる
- ・**自分の人生に重ねていのちの連續の向こうに**これからの未来の社会・未来の自分を探る

### “聞き書き”的 3つの要素



### 森づくり・地域づくりの活動



11

濱澤氏 演説スライドより

### <活動を通じて学んでいること>

- ・地域の礼儀、農、住、食、道具作り、森、共同作業…
- ・農ある暮らし：自分の五感で暮らしをチェック
- ・自分の命がどこに繋がっているかを絶えず自分で確認する⇒生きるリアリティー

### <人間性を育む環境教育>

#### □子供たちが学びたいこと

- ・五感を開発される喜び、身体で、魂で、わかりたい
- ・世界を自分の身体と心で確かめたい
- ・カオスの世界から自身のコスモスを創造したい
- ・主体でありたい
- ・共感を広げ、関係性のなかに自分を見つけたい

→自然に対する知識よりも自然の中で生きる知恵を学びたい

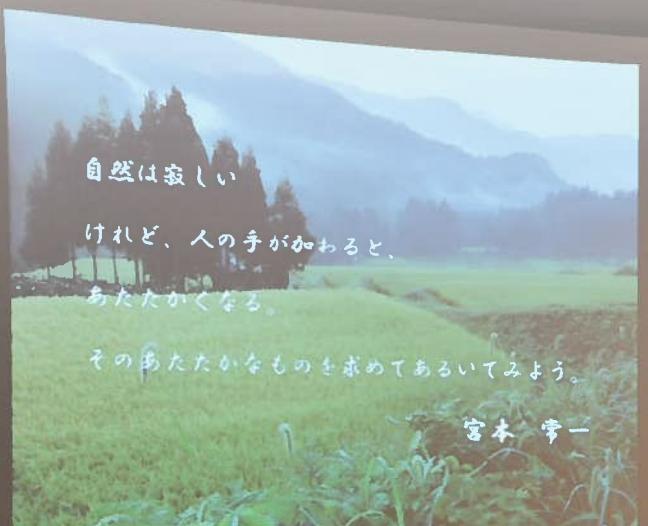


#### □得られる効果

- ・レジリエンス（立ち直る力）
- ・知識ではなく知恵を得る（自然の中で生きる力）

### <現代社会の問題>

- ・都市、農山村の問題をそれぞれ別個に考えるのではなく、「**何のために一生懸命生きるのか**」自然と人間の営みを合わせて考えるべきである
- ・新しいライフスタイル（価値観）の構築⇒次の世代が不安を感じないように、どう繋げていくか



## 11：00 知り合う時間

コーディネーター：人間科学研究所 所長 志賀 誠司 氏



### 《参加者の交流》

- ①2人組になって自己紹介：これまでの活動や学んできたこと、興味があること、環境教育ミーティングに期待していることを話し合う（1人3分）。
- ②6人組になって他己紹介（1人1分）：上記と同じことを他己紹介する。
- ③3人組になって基調講演の感想・質問：基調講演に関する感想を共有し、質問を話し合う



### 《講演の感想・質疑》

- |      |  |
|------|--|
| Q1   | 毎年100人聞き書き甲子園に参加しているが、参加しても途中で名人のことが嫌になって投げ出した高校生はいるのか。また投げ出しそうになった高校生に対してどういうサポートをするのか。                                 |
| A1   | 名人を裏切れないという気持ちが芽生えコミュニケーションをとるようになり、今まで全員が途中で投げ出さずやり遂げた。   |
| Q2   | かつての村社会のような人付き合いのある社会をつくりたいが、今の時代で昔のような村社会をつくるわけにもいかない。村社会とはちがう新しい社会をつくらなければいけないと思うがどのような形になるか。                          |
| A2   | 東日本大震災の被災地の2300人ほどのある集落では2300人全員が知り合い。村全体で家族のように生きようとするため、復興が早い。コミュニケーションがとれる限界単位があるため、顔が見える単位をつくりなおすことがキーである。           |
| Q3-1 | 聞き書き甲子園は構想から実現にむけてどのくらい時間がかかったのか。  |
| Q3-2 | 色々な主体を巻き込むなかで大変だったこと、工夫したことは？  |
| A3-1 | 2年。  |
| A3-2 | 当時は国とNPOが協力して事業をすることはなかったが社会の反応が変わってくる。今の状態をどう良くしようかという姿勢ではなく、未来に向いて歩きながら今の問題を解決しようという姿勢を心がけていることが必要。                    |
| Q4-1 | 聞き書き甲子園の対象を高校生にしたのはなぜか。  |
| Q4-2 | 今アーカイブの問題に直面しているが、ネットワークの構築につまずいているので何かアドバイスがほしい。  |
| A4-1 | 小・中は環境学習のメニューがたくさんあるが、高校生は忙しいためあまりなかった。高校生は社会的接点がなく、社会と高校生を繋げなければならない。多感で社会的接点を持とうとし、自分のコスモスをつくりはじめる時期である高校生を対象にしようと考えた。 |
| A4-2 | ネットワークは作るものではなく、できるもの。共感をもつことでネットワークが広がる。時間の積み重ねによって縦のつながりもできる。経験をつんでない下の世代と経験豊富な上の世代がつながることでネットワークはできあがる。               |

## 12：00 昼休み（協働ミーティングのテーマ募集）

午後の部で行う「協働ミーティング」で話し合うテーマも募集。（募集テーマ：『複数の主体が協力して行う環境活動の提案』）



## 12：45 おかやまエコスクール表彰式

プレゼンター：かんきょうひろば運営委員会 委員長 成田 美和子

赤磐市立山陽東小学校(○)、鏡野町立鶴喜小学校、倉敷市立児島小学校、玉野市立玉原小学校、  
津山市立東小学校(○) ※「○」：表彰式に出席



## 13：00 ブース出展（37団体が出展）

- |                            |                              |
|----------------------------|------------------------------|
| 1) 株式会社トンボ                 | 20) 岡山大学環境部 ECOLO            |
| 2) ペガサスキャンドル株式会社           | 21) NPO 法人工エコネットワーク津山        |
| 3) NIK 環境株式会社              | 22) 倉敷・総社温暖化対策協議会            |
| 4) おかやまエコマインドネットワーク        | 23) 認定NPO法人おかやまエネルギーの未来を考える会 |
| 5) 公益財団法人 おかやま環境ネットワーク     | 24) 電一郎先生(土井伸一郎)             |
| 6) みずしま財団                  | 25) 岡山県シェアリングネイチャー協会         |
| 7) 環境学習センター「アスエコ」          | 26) 自然体験リーダーズクラブ             |
| 8) 一般社団法人 チカク              | 27) せとうち花俱楽部                 |
| 9) 高梁川流域学校                 | 28) 岡山県森林インストラクター会           |
| 10) NPO法人国際協力研究所・岡山 (ICOI) | 29) 千年の森つくりグループ              |
| 11) 岡山市立京山中学校              | 30) 操山公園里山センター               |
| 12) 岡山市立平福小学校              | 31) 旭川うなぎ探検隊実行委員会            |
| 13) ほたるキラリクラブ(矢掛町立川面小学校)   | 32) 岡山 ESD 推進協議会・岡山市         |
| 14) 岡山県立水島工業高等学校           | 33) 倉敷市環境学習センター              |
| 15) 岡山県立岡山南高等学校            | 34) アッパービレッジ有限会社             |
| 16) 岡山理科大学附属高等学校           | 35) 明和製紙原料株式会社               |
| 17) 西粟倉村教育委員会              | 36) 株式会社ハウジング山陽              |
| 18) 岡山県立矢掛高等学校             | 37) 株式会社サンキョウ - エンビックス       |
| 19) YKG60(やかけ小中高こども連合)     |                              |



## ブース出展



それぞれの団体の活動や学習プログラムを紹介しました。



## 14:40 協働ミーティング

コーディネーター：人間科学研究所 所長 志賀 誠司 氏

### ①オリエンテーション・テーマ発表・グループ分け

- ・15 テーマが提案され、各テーマについて提案者からその趣旨や問題意識など説明（1人1分）
- ・参加者が興味のあるテーマに集まり、ワークショップ形式による検討を行った
- ・テーマに対する①問題意識、②期待できる効果、③大きな活動イメージを模造紙にまとめる

協働ミーティングのテーマ一覧（昼休みに募集）

- 1) 環境保全活動・環境教育に興味がある若手ネットワークの構築
- 2) 野草ワークショップ（親子で体験）
- 3) 里山・里川・里海
- 4) 炭焼きを通して足元の環境を考えよう
- 5) 食・農・暮らしから考える・実践する持続可能な社会
- 6) 学校現場における環境教育
- 7) 地域の「再生」とは？・・・千年先をめざす「縊」づくり
- 8) 里山環境保全
- 9) 環境キットをつくろう！
- 10) 百間川でつなげる地域のきずな 水環境の保全と地域住民とのつながり
- 11) 自然の中で遊ぶ親子ツアー
- 12) 今の小学1年生が大学を卒業した頃に必要とされているであろう生活技能（知恵）は何か？
- 13) 小学校の夏休み宿題サポート隊（環境自由研究）
- 14) 川・水を軸につながる学習
- 15) 原子・分子から環境を考える



### 15:00 ②グループ別ワークショップ

- ・各グループで話し合い（別途資料11ページから）

### 16:05 ③発表会・全体共有

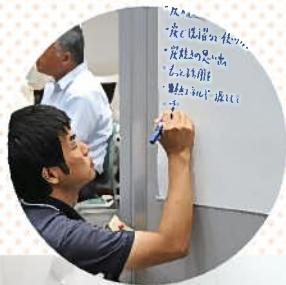
- ・参加者が聞きたいと思うテーマに集まり、テーマ提案者から発表を聞く（1ラウンド10分×2ラウンド）。
- ・最後に一番よかった提案について投票（シール）し、上位3位までのグループを発表

評価の高かった上位3位までの提案

1 冠	自然の中で遊ぶ親子ツアー	43票
2 冠	環境キットをつくろう！	40票
3 冠	環境保全活動・環境教育に興味がある若手ネットワークの構築	29票
3 冠	川・水を軸につながる学習	29票



## 協働ミーティング

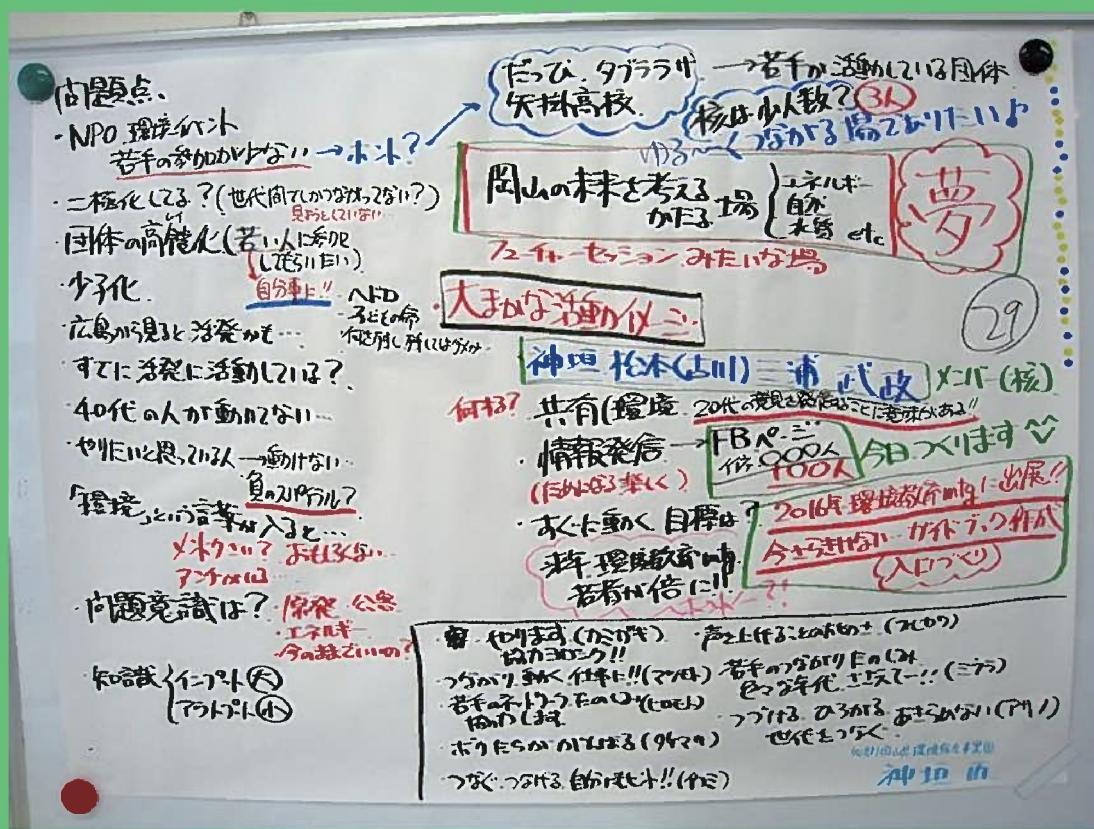


協働で取り組んでいくテーマを話し合いました。

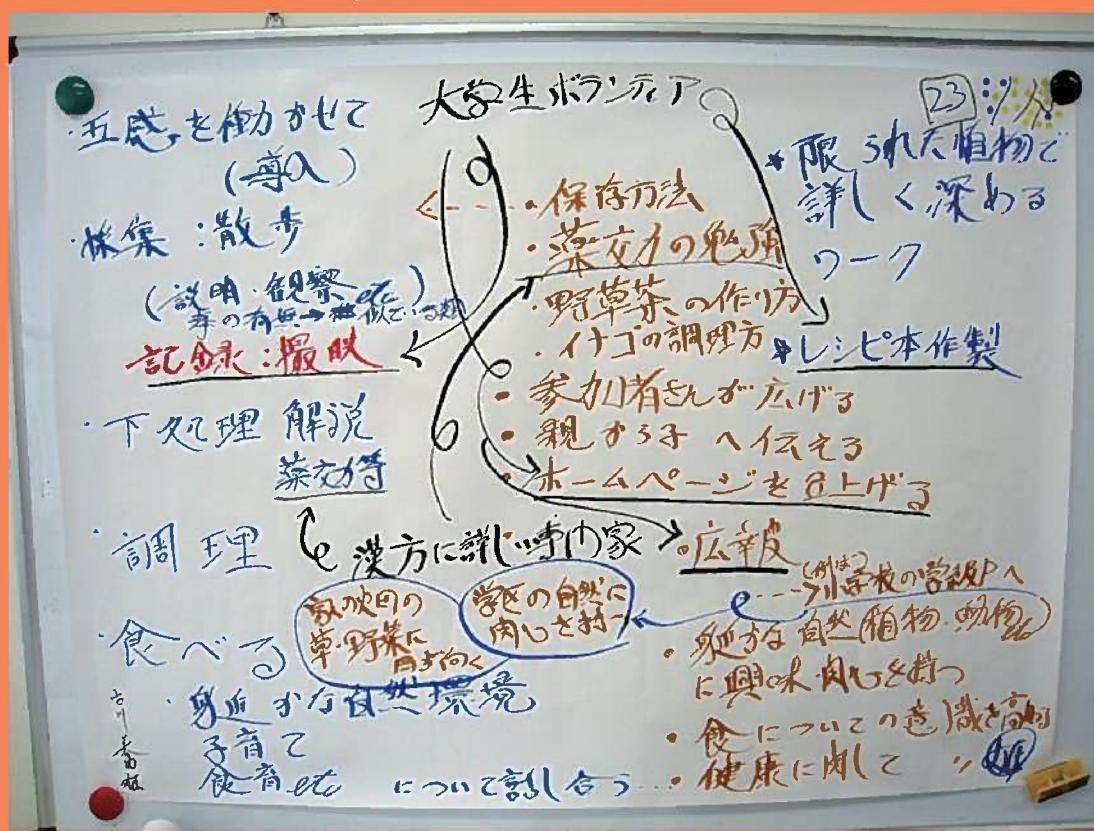


## 各グループの話し合い

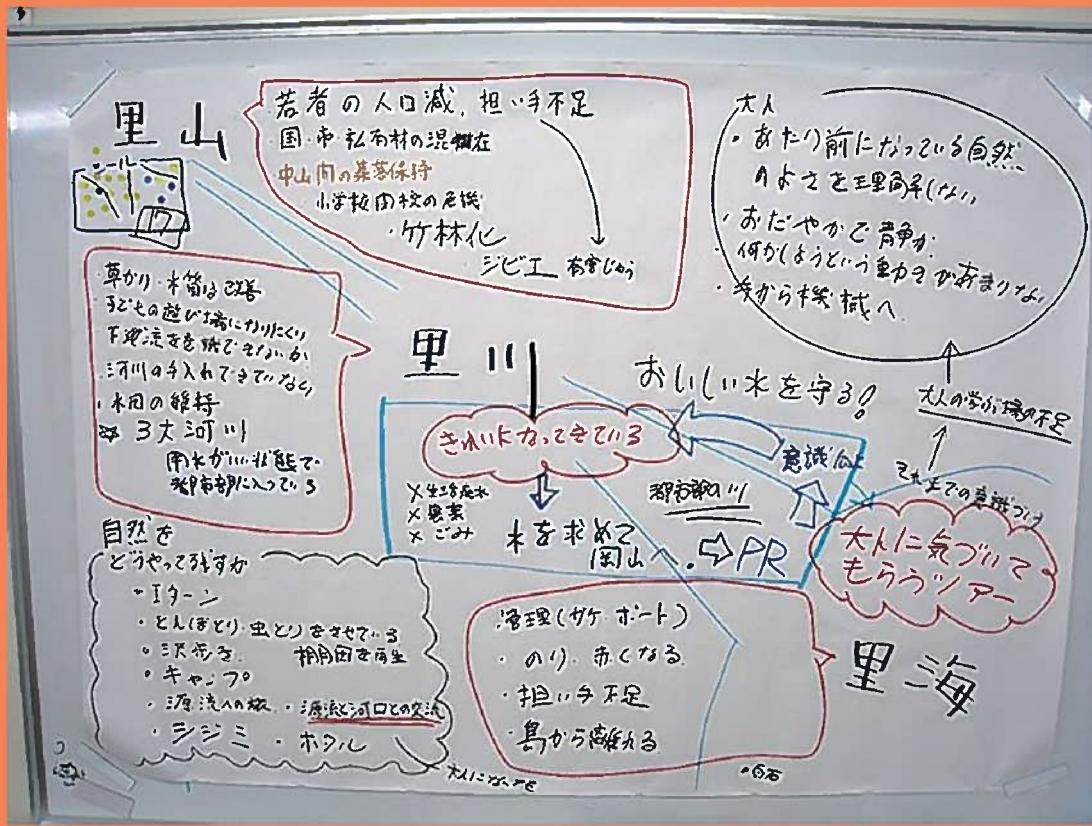
### 1) 環境保全活動・環境教育に興味がある若手ネットワークの構築



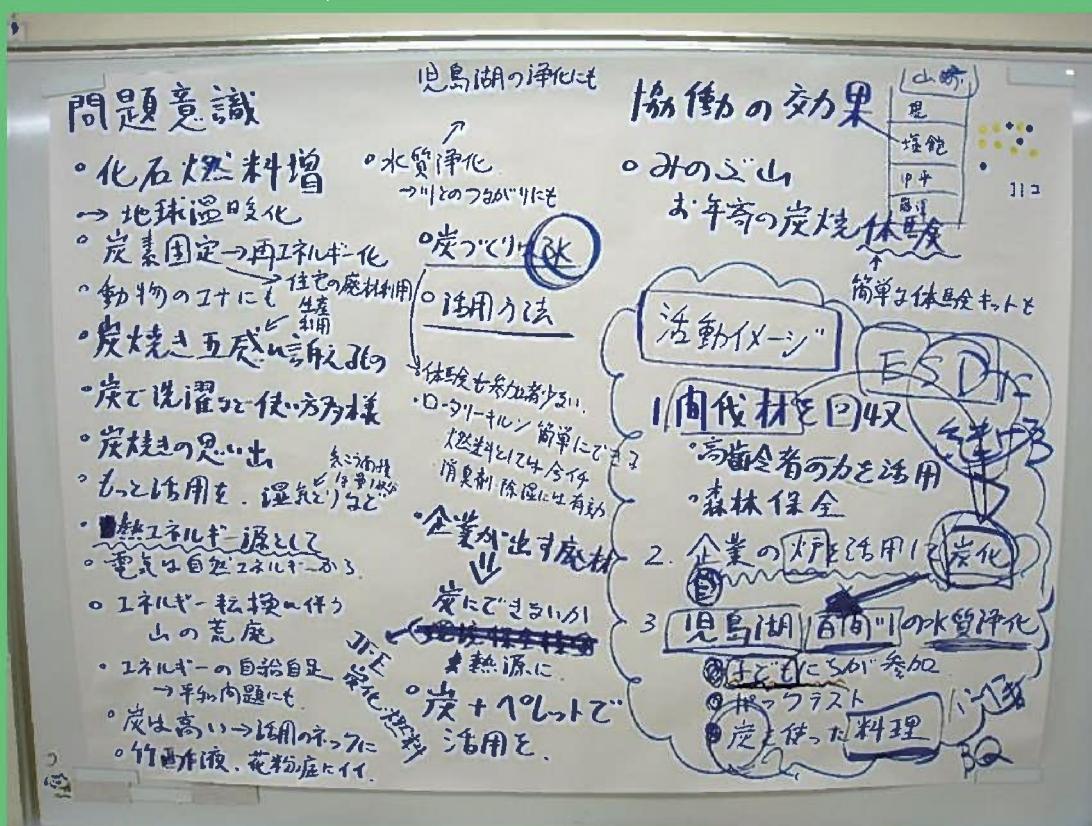
### 2) 野草ワークショップ (親子で体験)



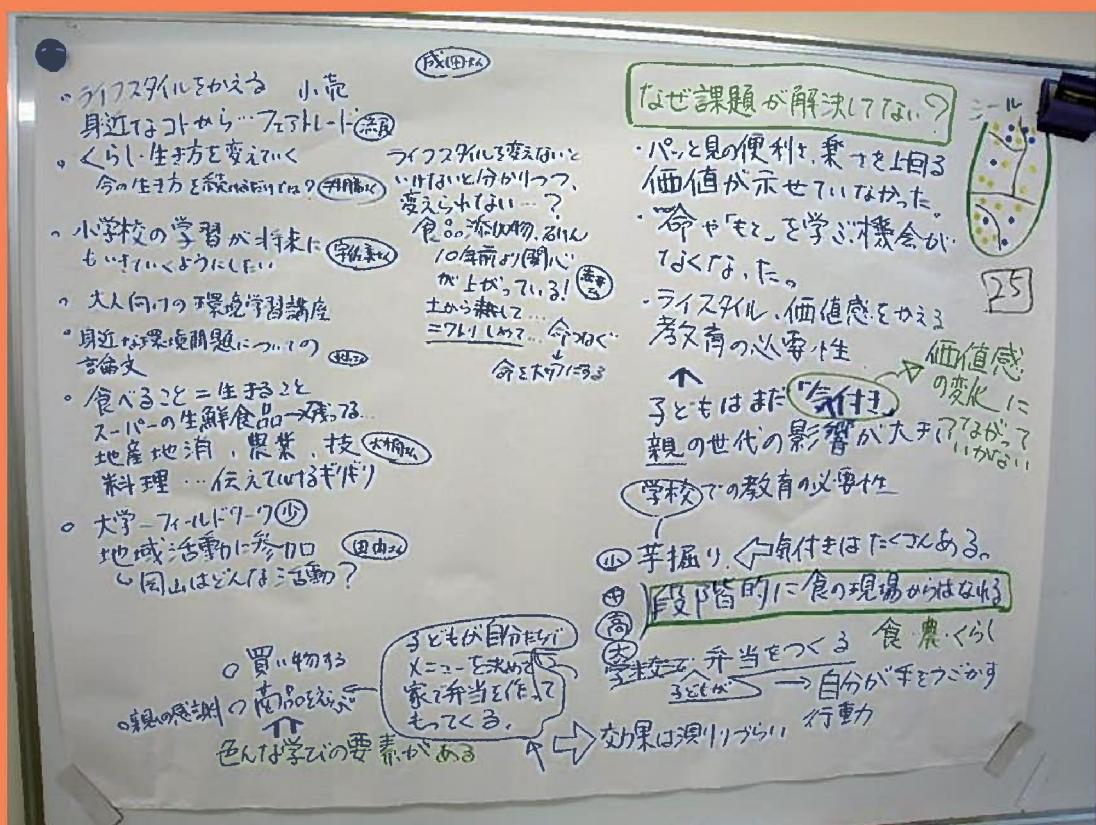
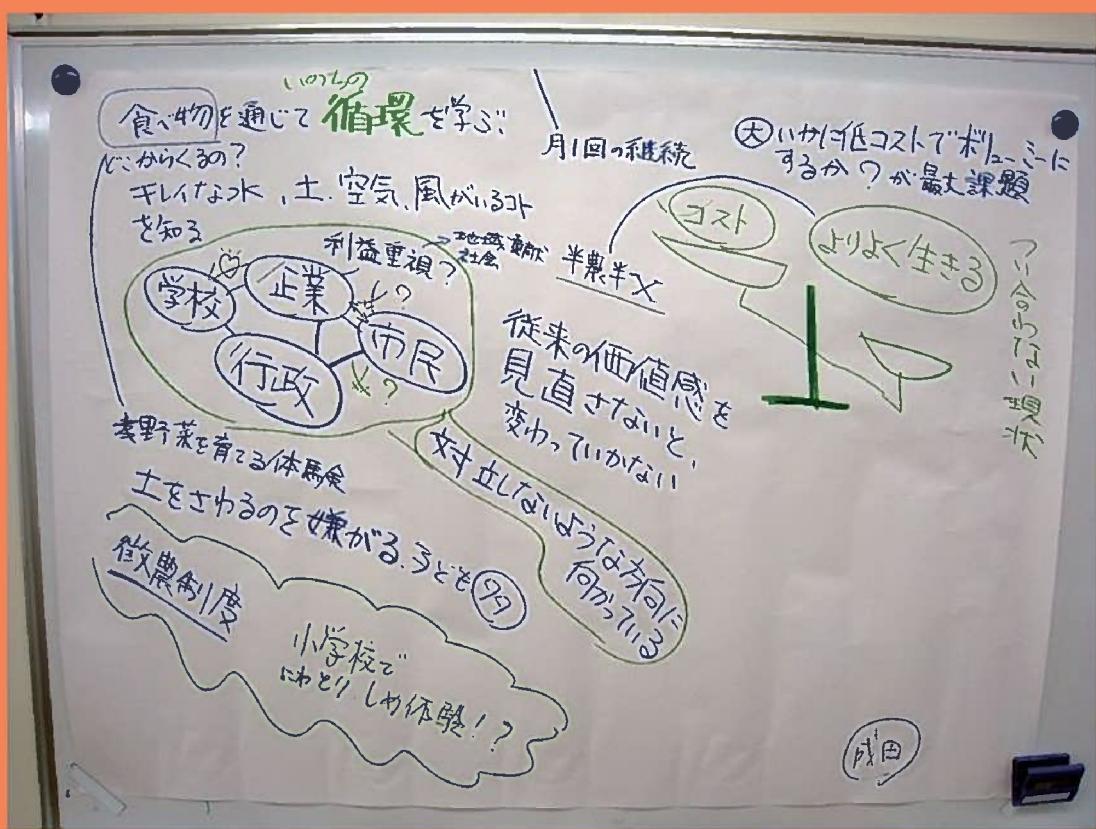
### 3) 里山・里川・里海



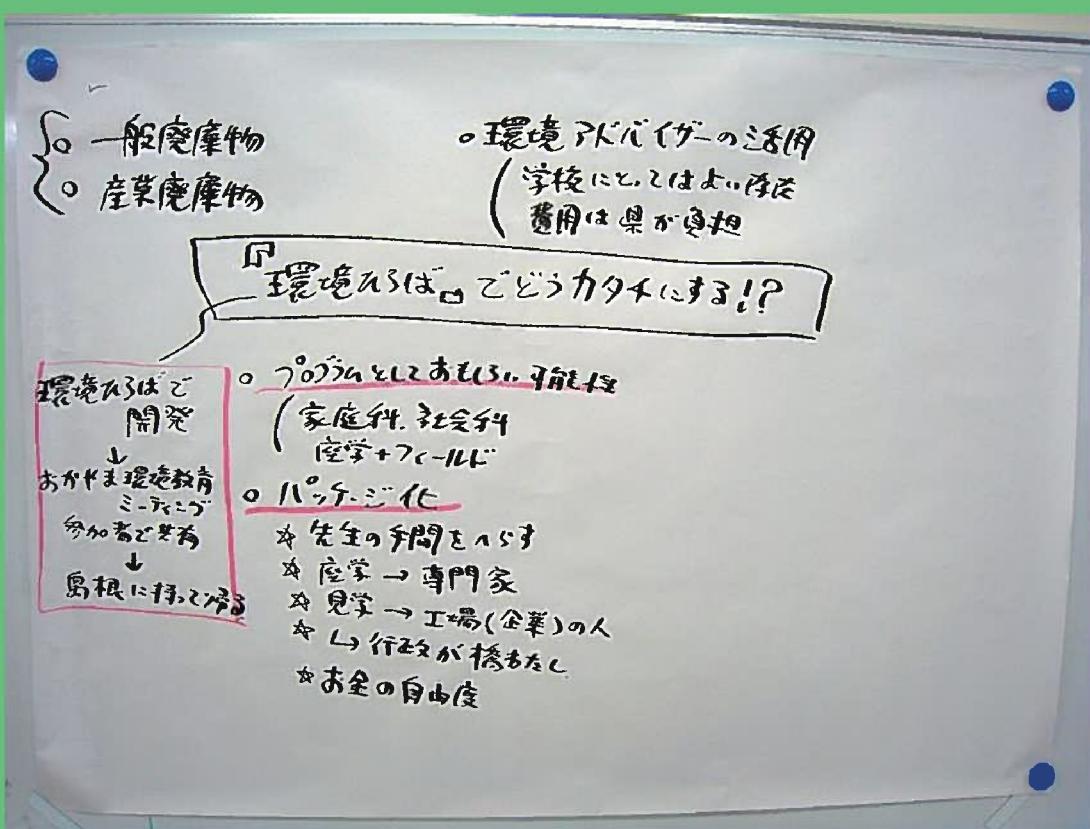
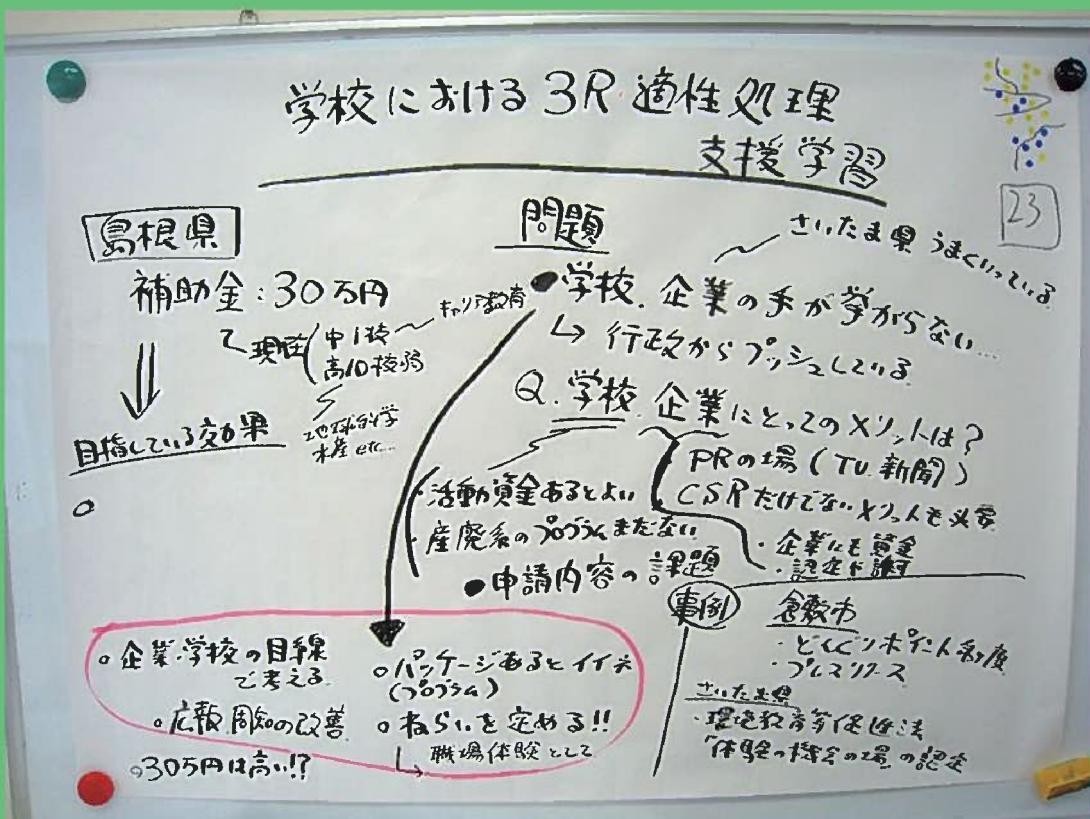
### 4) 炭焼きを通して足元の環境を考えよう



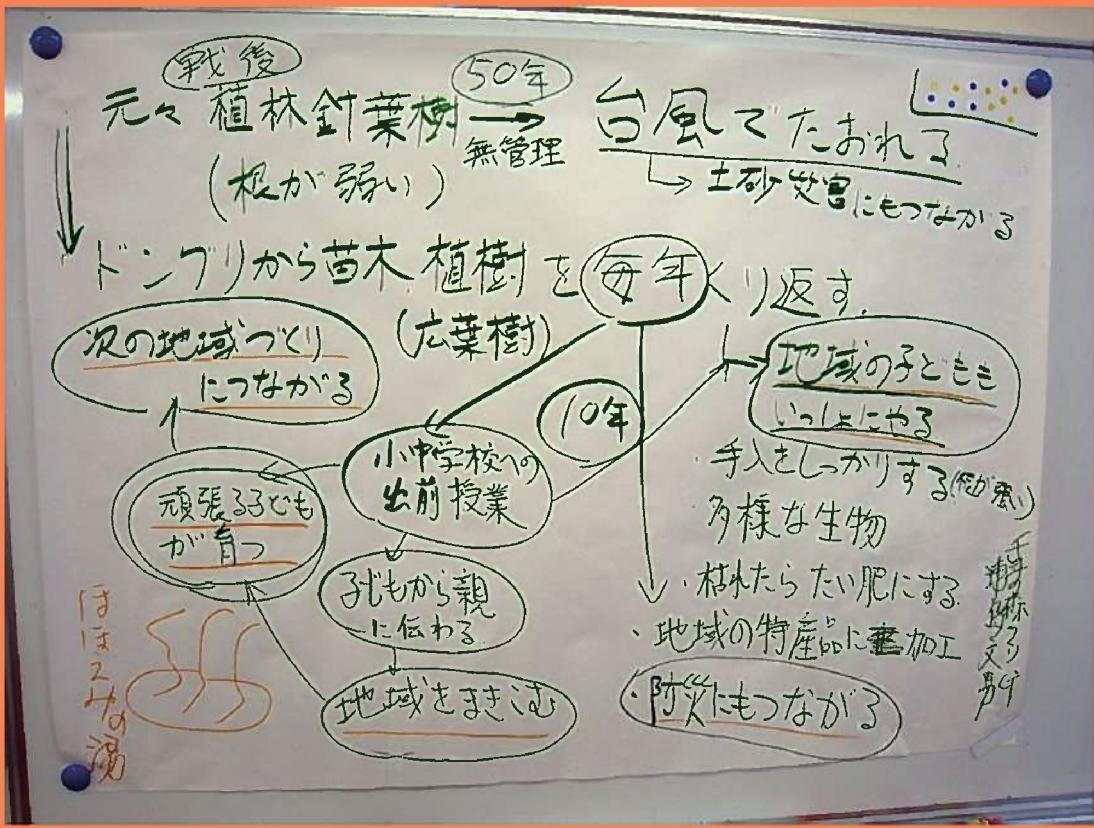
## 5) 食・農・暮らしから考える・実践する持続可能な社会



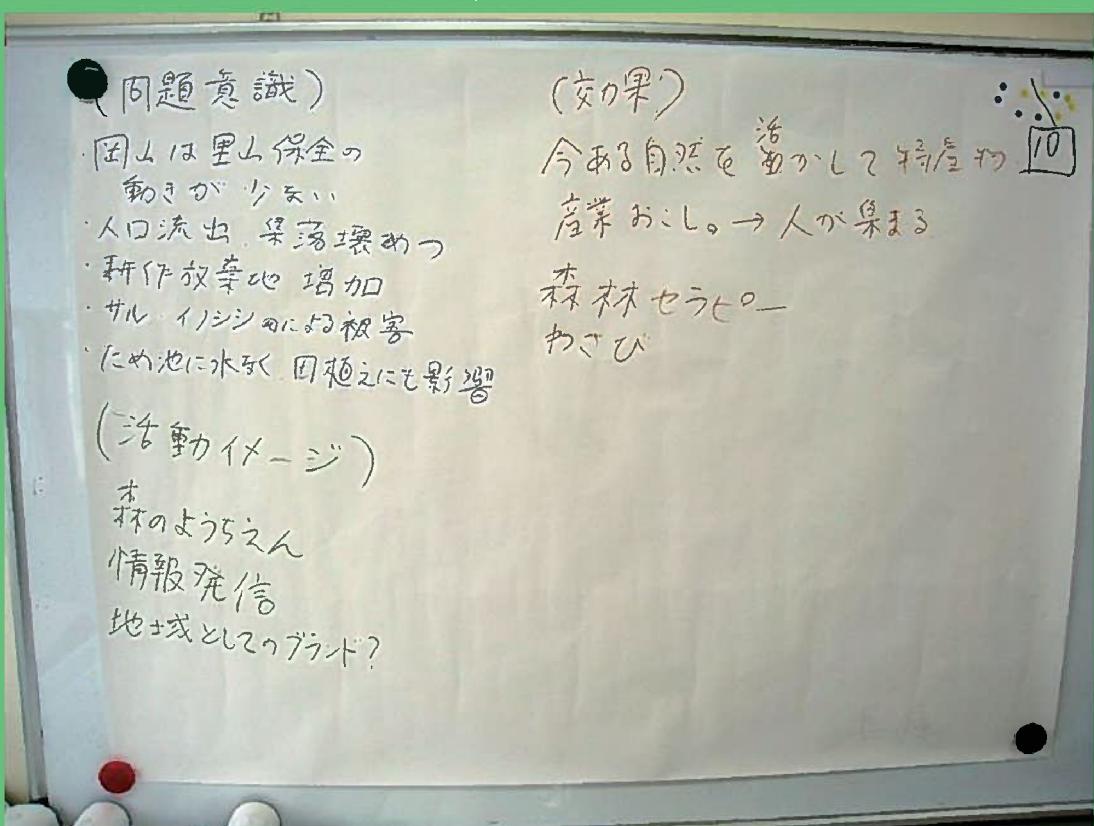
## 6) 学校現場における環境教育



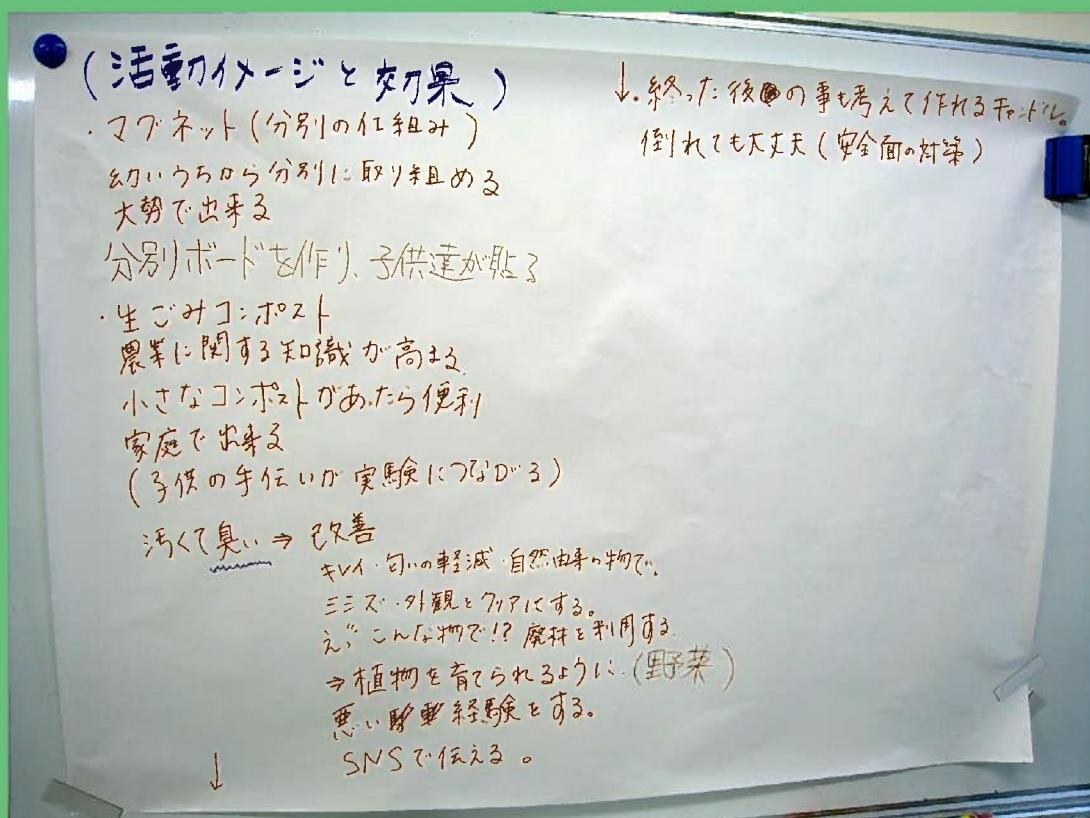
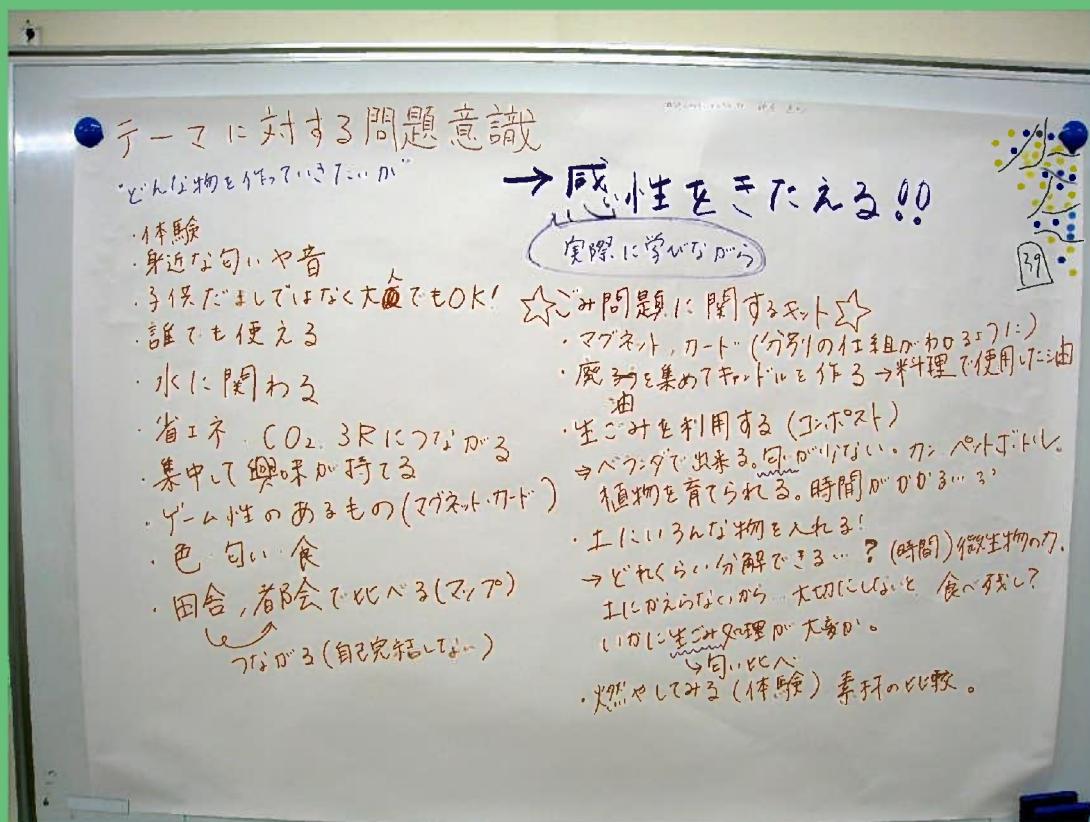
## 7) 地域の「再生」とは？・・・千年先をめざす「縊」づくり



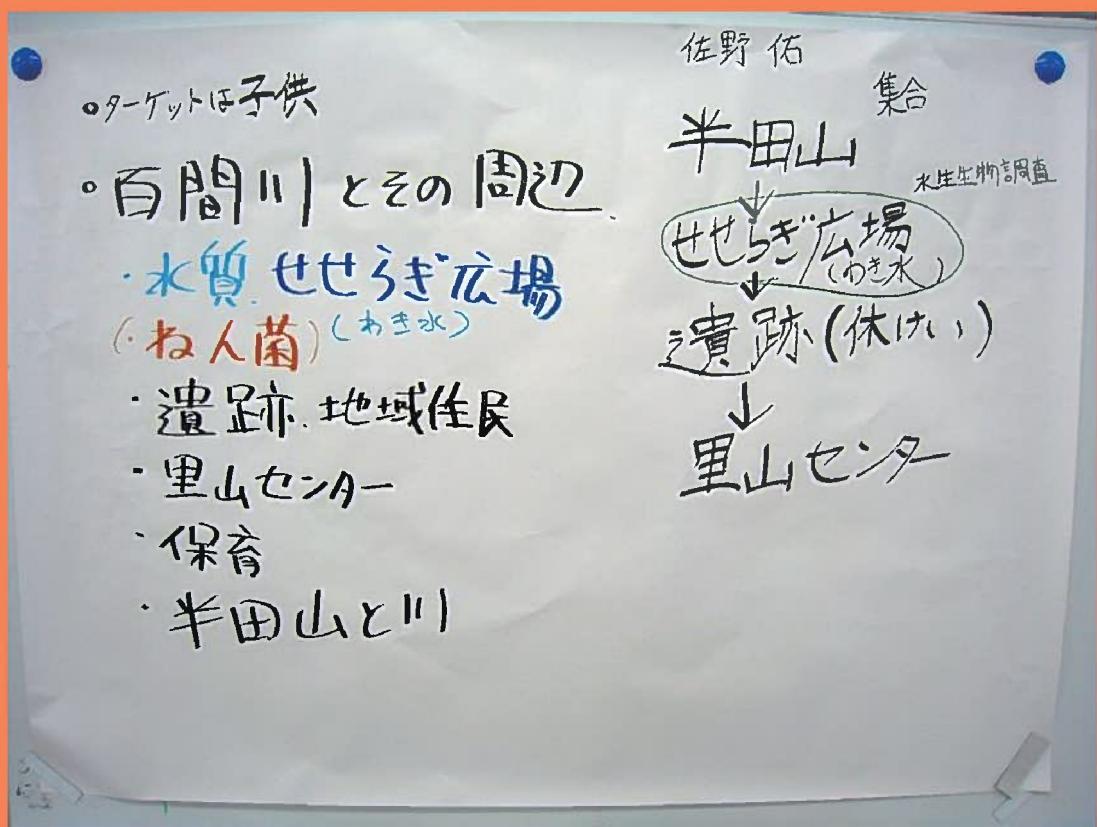
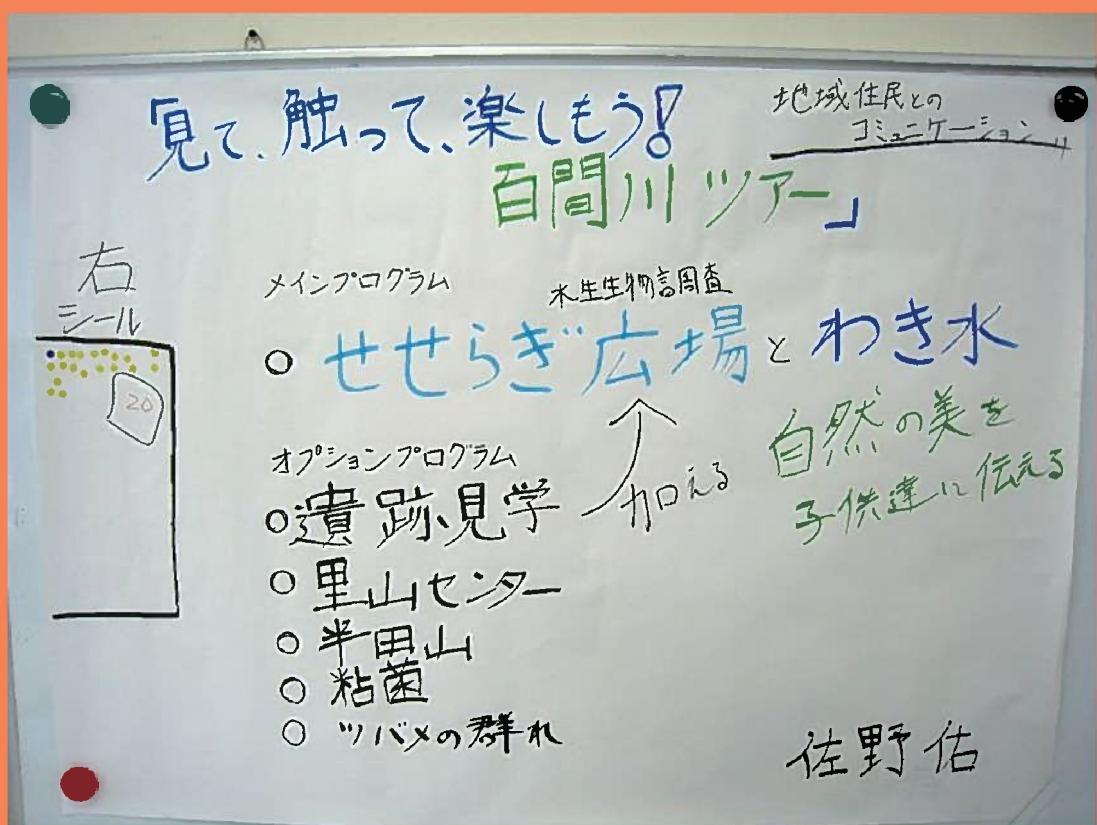
## 8) 里山環境保全



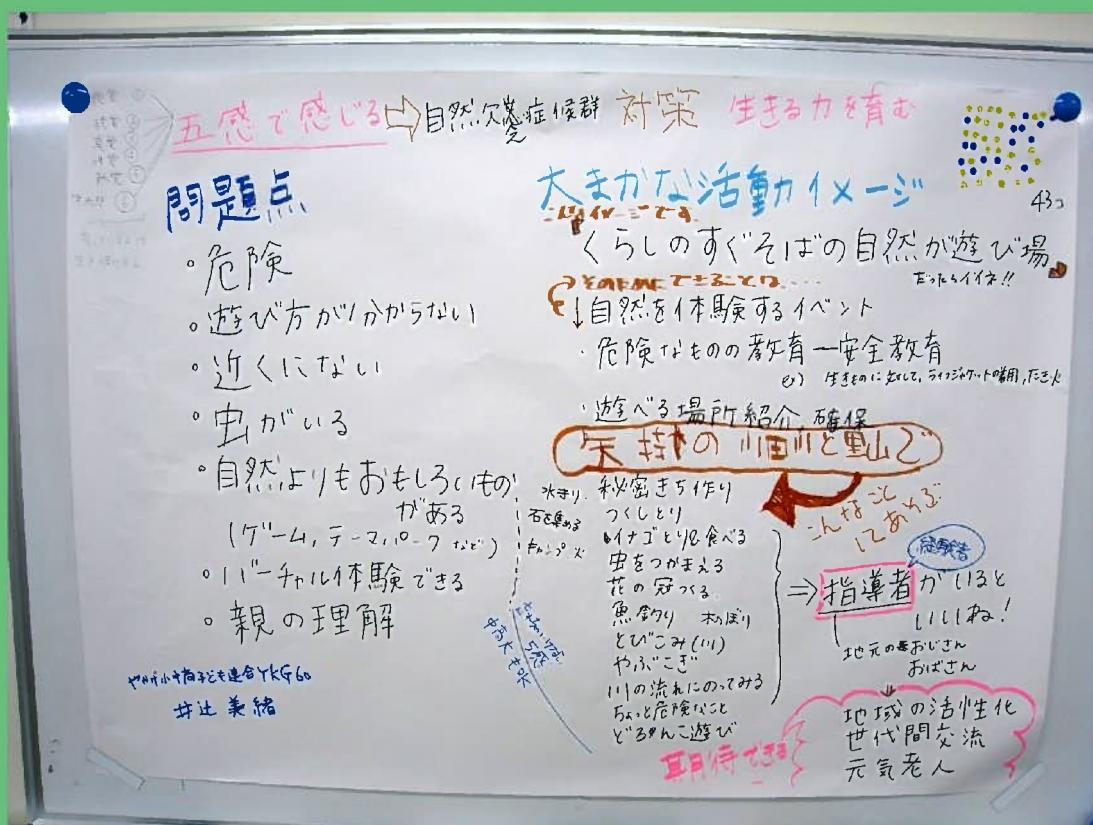
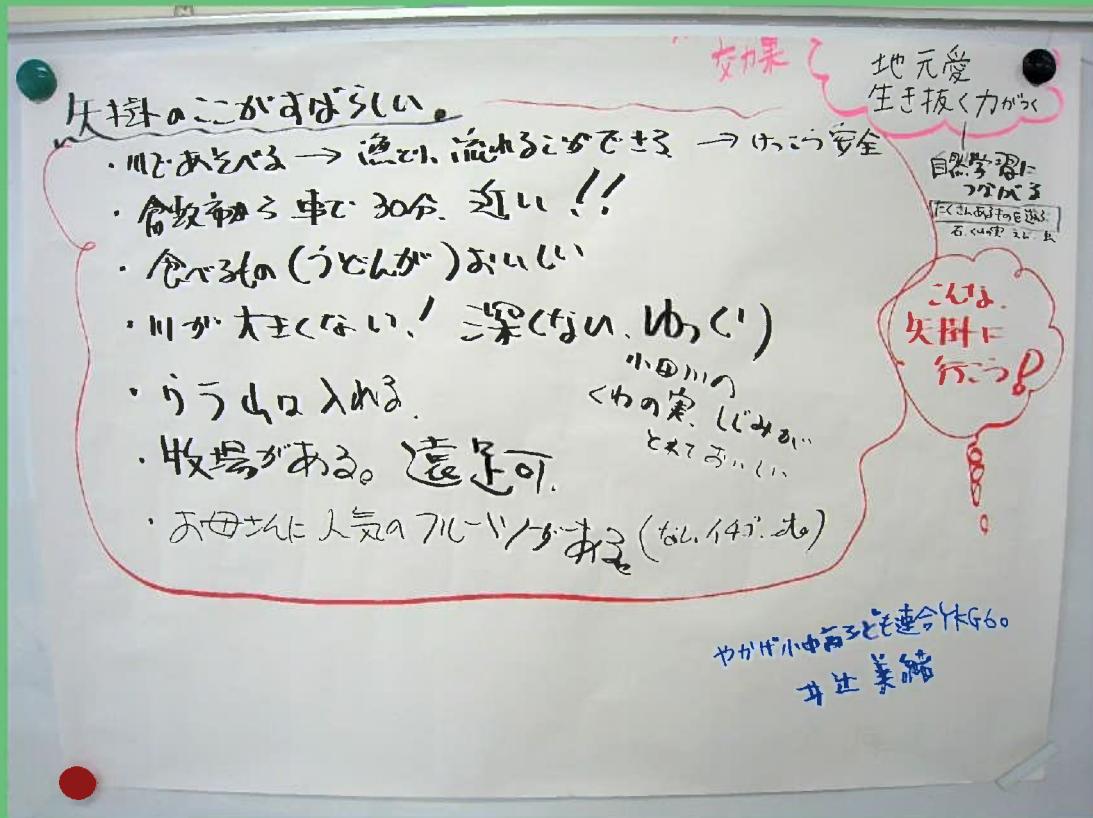
## 9) 環境キットをつくろう！



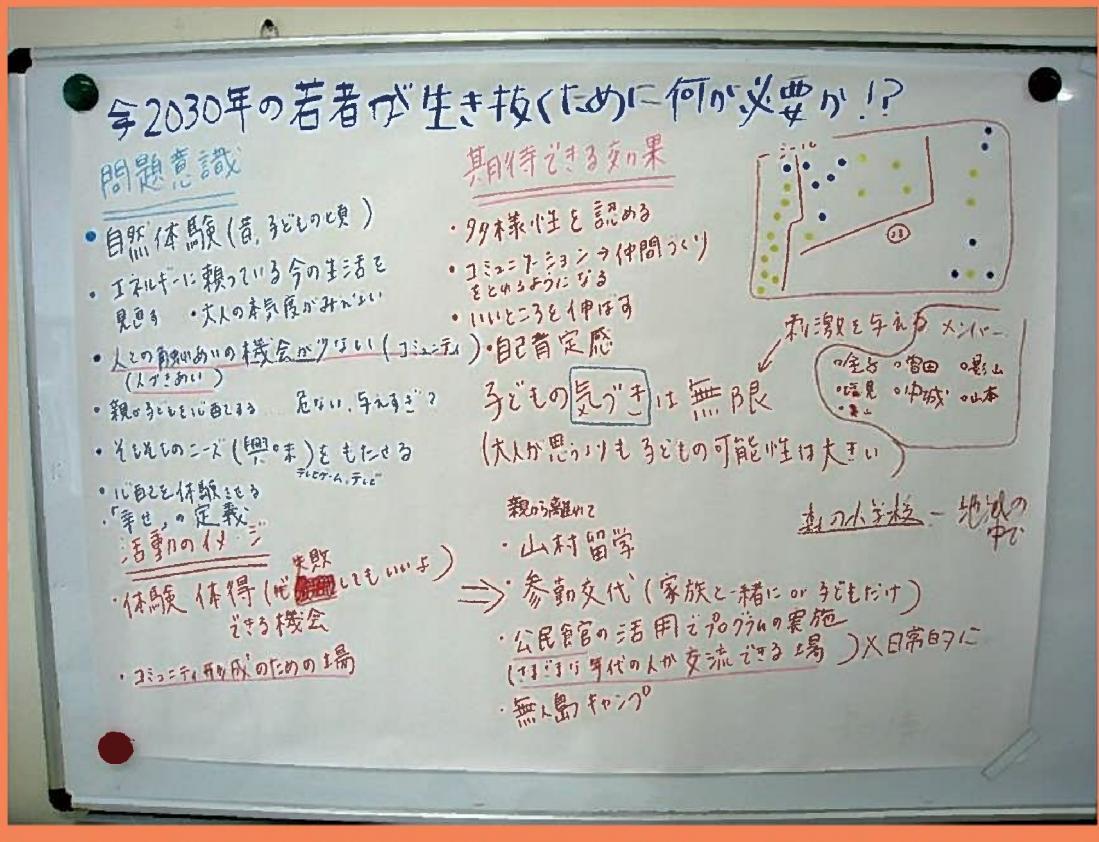
10) 百間川でつなげる地域のきずな 水環境の保全と地域住民とのつながり



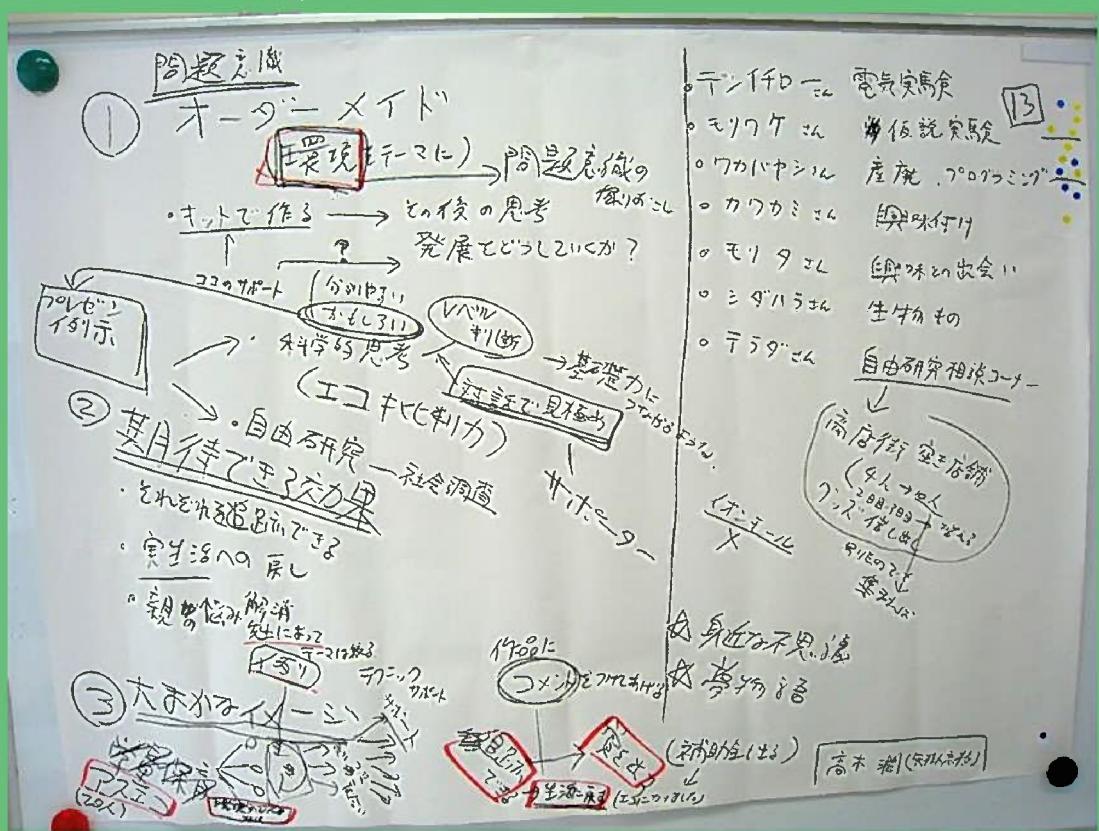
## 11) 自然の中で遊ぶ親子ツアー



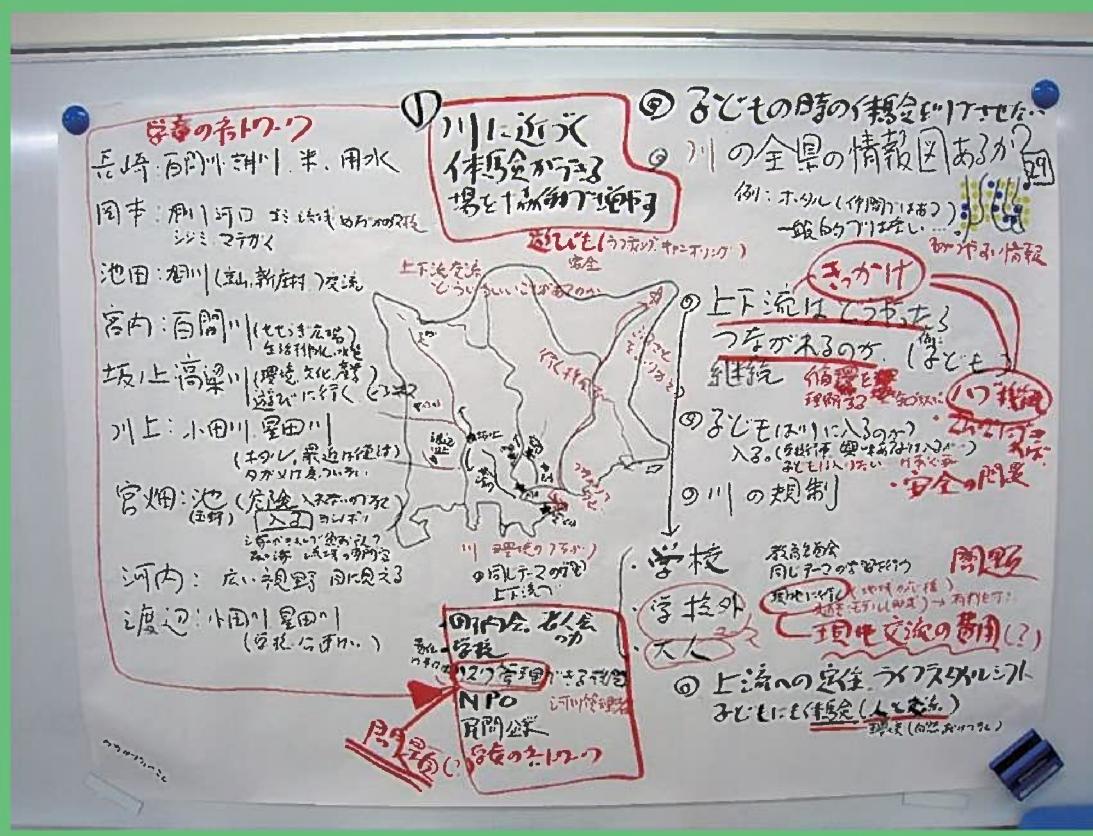
12) 今的小学1年生が大学を卒業した頃に必要とされているであろう生活技能(知恵)は何か?



13) 小学校の夏休み宿題サポート隊(環境自由研究)



## 14) 川・水を軸につながる学習



## 16:50 全体ふりかえり・アンケート

- 締めくくりに今日1日の感想を協働ミーティンググループ内で一言ずつ
- アンケート実施

## 17:00 閉会挨拶

岡山県環境文化部 新エネルギー・温暖化対策室 室長 片山圭子 氏

- 普段それぞれの活動を行っている方々が知り合い、つながることがこの会の最大の目的。
- この機会に知り合えた良いきっかけを、今後の取組に大いに活かしてほしい。



# 参加者の声(アンケートより抜粋)



## ● 参加者のみなさんについて

- ・参加者の年代は、10代～70代までの幅広い方々に参加いただき、20代(21%)の参加者が最も多く、また10代(18%)と50代(18%)の参加者も比較的多かった(図1)。
- ・参加者の所属については、学生(30%、主に高校生)、NPO(19%)や学校(17%)の方々を中心に企業や行政職員等の多様な方々に参加いただいた(図2)。
- ・参加したきっかけについて、紹介(48%)が最も多く、チラシ(17%)やメール(14%)を見て参加された方が多かった(図3)。

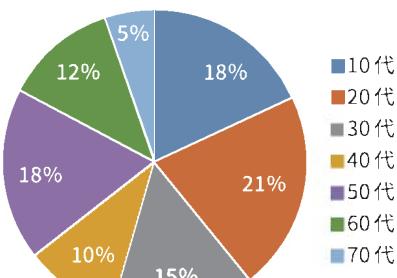


図1: 参加者の年代

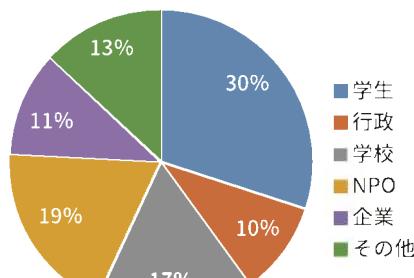


図2: 参加者の所属

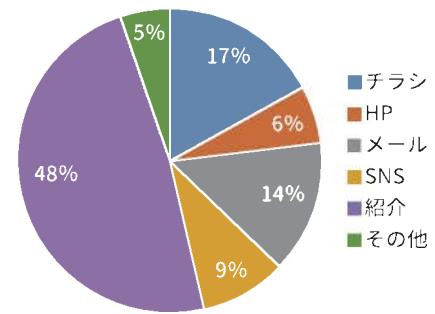


図3: 参加したきっかけ

## Q. 第3回おかやま環境教育ミーティングの内容は、あなたの目的や期待を100点とした場合、何点でしたか？

- ・参加者の大部分の方から90点以上の評価をいただいた。  
(平均89.8点、図4)
- ・多様な主体、幅広い世代の参加者同士で交流・意見交換できることやつながりができたこと、基調講演の内容や協働ミーティング(現実的な話合いができたこと)について高く評価する意見が多くあった。
- ・一方で、「ブース展示時間の短縮」、「協働の仕組みの検討」や「学校・企業の参加が少ない」ことなどについての意見もあった。
- ・満足度について、すべてのセッションに半数以上の方が「満足」と回答し、「基調講演」では72%の方が「満足」と回答し、最も満足度が高くなかった。続いて「協働ミーティング」(66%)、「ブース展示」(60%)、「知り合う時間」(58%)の順に満足度が高くなった(次ページ、図5～8)。
- ・「基調講演」での満足度の高さやその内容により、ミーティングに対する参加者の共通理解(目標共有)ができたことが、その後のセッションの満足度につながったように思われる。

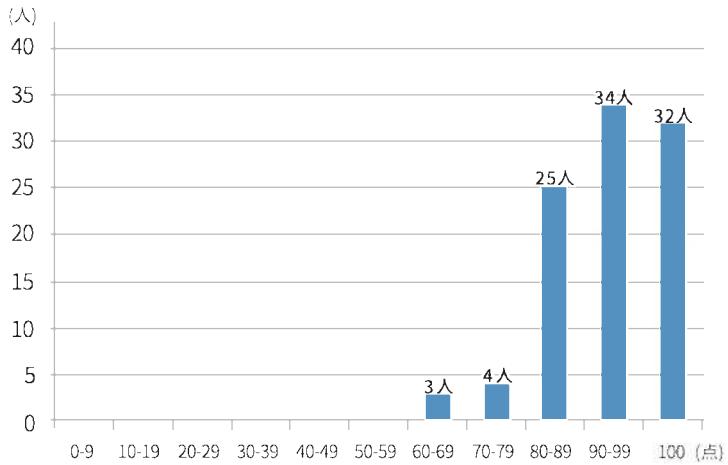


図4: 点数の頻度分布、平均点89.8点

### 【その理由（一部抜粋）】

- ・多様な主体の方々と実際話ができる見識が広まった。想像をはるかに超える盛り上がりだった。
- ・高校では扱わない内容ばかりで、聞いていると探検をしているようにワクワクしました。
- ・つかみの滝澤先生のお話がアフリカ帰りの私にしみ入った。さまざまな人と会話、交流できたことがよかったです。
- ・時間がもっとほしい！と思いました。（協働ミーティングを10分ずつ回る際など）。内容やセッティングなどとても充実していて、とても良い刺激をたくさんいただけた1日でした。
- ・ブース出展の時間が突然に短縮されて全部見きれなかったからブンブン。
- ・協働ミーティングに時間を充分取ってください。
- ・ブース（出展）の内容がよかった。楽しかった。
- ・交流もしやすく、協働ミーティングなど、より実現しやすくつながりやすくなっていてよいと思いました。
- ・前回よりWSの内容が充実していた。基調講演がよかった。ブース展示が30分短くなったことを直前まで知らなかつたので全部まわれなかつた。
- ・学校とつなげたいと思いながら、環境教育＝地域とのつながりを考えて来ました。地域とつなげる方法をもう少し学べたらと感じた（これが20点分）。

・いろいろな人（企業の方、先生）がいて、知識が増えた。すごくおもしろかった。眠たくなく、常に目がぱっちりだった。

・昨年度よりもしっかり深くつながりをつくることができた！！時間配分がよかったです。

・高校生の意識・知識の高さに感動！！新たな出逢いつながりが出来た。

・学校の先生方の参加がまだ少ないのが残念。企業さんの参加が少ない。もっと大手のメーカーにも来てほしい。あとはGood。企画・運営すばらしいです。

・会の進行に工夫がみられよかった。一日が短く感じられた。いろんな立場の人、地域の人とふれあえて楽しかった。若い人の参加が多い（高校生、大学生）、次世代に期待できる。（かな。）

・基調講演の滝澤先生の話のすばらしさ、普段お会いできない方・団体との出会い。

・色々な考え方を持った方と交流したり、地域の取り組みを知ることができ、普段このような企画に参加したことがない、今回参加してみてまた参加したいと感じたため。

・コンテンツの紹介がメインで、それを無理なく続けていくための工夫など、システムについてもいろいろ知りたかった。

### 【各セッションについて（満足度）】

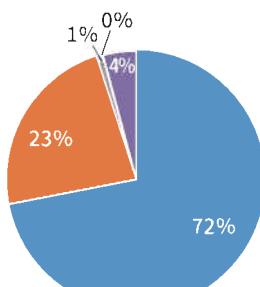


図5:基調講演

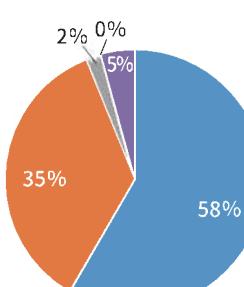


図6:知り合う時間

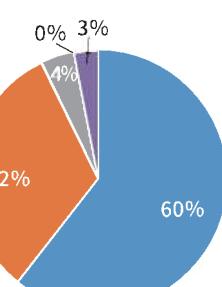


図7:ブース展示

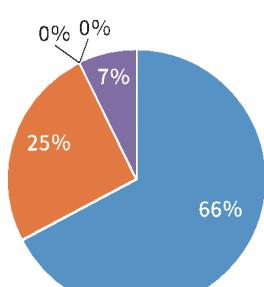
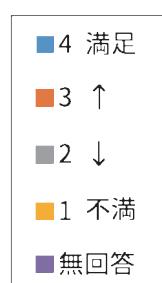


図8:協働ミーティング



### Q. 本日の参加の目的を教えてください

参加目的には、「つながり」「交流」「環境教育を知る」など協働のためのネットワークづくりを目的とする方が多く、「基調講演」「協働ミーティング」「どんぐりリサイクル」「YKG60」（活動・団体PR）「香川県での開催」など個別に明確な目的をもって参加されている参加者も比較的多かった。

### 【コメント一部抜粋】

・地域と子供が連携してとりくむ環境学習に前進する手がかりを探しにきました。

・香川県でも同様のミーティングを開催したい。また色々と教えてください。

- ・環境学習についてのヒント
- ・視野を広げる
- ・協働ミーティングの協議。
- ・団体のPRはもちろん、他の団体の方々のプログラムや環境についての情報の共有。
- ・仲間づくり。
- ・協働の実施体験とネットワークづくり。
- ・どんぐりリサイクル賛同者を探す。
- ・ブースの展示、基調講演
- ・第2回の時に約束したので(夏休みなら来れる) 来ました。よりよい環境学習のためのアイデアを吸収したいと思っています。
- ・同じ目的を持った人、団体とつながりを求めて

- ・環境活動をされている方との交流
- ・環境に関して、様々な考え方の方たちと話をして、人の輪を広げたかったです。
- ・環境キットのPR、交流。
- ・環境について知りたいから。
- ・つながり。課題解決の一助としたい。
- ・おかやまの環境教育の現状を知る・授業アイデアを探る・エコスクール表彰式
- ・YKGの活動を知ってもらって、他の方の活動を知りたかったです。
- ・マンパワーからシステムパワーへの移行をどうやつたらいいのかヒントをもらいにきました。
- ・学校教育でどのように生かすかということで、アイデアを頂くことができました。

## Q. その目的は達成されましたか？

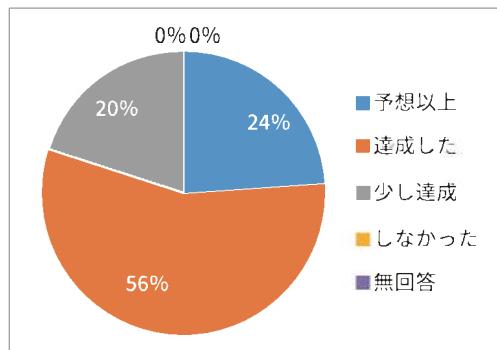


図9: 目的は達成されましたか？

参加者の24%が「予想以上」、56%が「達成した」、20%が「少し達成した」と回答した(図9)。

### 【コメント一部抜粋】

- ・いろいろな方の話を聞くことでたくさんの知識を身につけることができた。
- ・環境をひとことで言っても、ジャンルが違って、それぞれにおもしろい分野があったから。
- ・具体的な活動目標が見えた。
- ・自分の環境に対する考えが、ぐっと広がりました!!
- ・次へのステップになった。
- ・予想していたものより、大規模なミーティングだったし、1人1人の情報の内容が濃かったため。
- ・教育分野での取組の実際を知ることができた。若い人や企業の方の真剣な意識に感銘を受けた。
- ・岡山県外でも活動している方とお話しできただけ。
- ・協働ミーティングにて達成できました。
- ・辻澤先生の講演素晴らしかったです。
- ・一部の方としか、話し合いができなかつたように感じる。

- ・動き出せそうなつながりをつくることができました!!
- ・協働ミーティングで、色々な話を聞くことができたし、体験することができたから。
- ・自分が思っていたものよりも多くの情報が得られた。
- ・それぞれ色々な角度から意見を述べており、また思っていたよりも身近な考え方を持っている方が多く、環境について詳しくない私でもとっつきやすかった。
- ・ブースに様々な人が来られたので。(大人数)
- ・老若男女、強い思いを持つ人たちの存在を知る事ができた。
- ・新しい人と出会えた。企画への参加者を確保できた。
- ・協働ミーティングが参考になりました。
- ・午後のワークで提案者としてたくさんのアイデア・ヒント参考になる意見を頂き、勇気付けられた。
- ・名刺交換や面識はできたが、後のつながりまでは考えられにくい。
- ・一緒にやれる人はみつけることができなかった(?)

## Q. 今回のミーティングで考えたこと、発見したこと、参考になったことは？やってみたいことは？

「つながり・つながる」ことの重要性や具体的な協働のアクションに言及するコメントが比較的多く見られた。また、今回10代と20代の参加者が多かったことからも「高校生」や「若者」に関する意見も多くあつた。

### 【コメント一部抜粋】

- ・“つながり”的大切さを感じました。
- ・いろんな人と出会う、語ることの大変さと重要さを実感しました。語る場をつくりたい。
- ・岡山ではエコツアーを大事にしている会社が他県と比べて多いと思ったし、本当に若者が必要としているんだと思ったので、自分もそれに貢献していきたいと思った。
- ・各団体の協働のためにはこうした場の提供が不可欠で岡山の仕組みはすごく完成されている。
- ・企業OBへの聞き書き甲子園
- ・環境のことと言っても、自然だけでなく、人とのつながりが重要になると学びました。
- ・協働のすすめ方がとても参考になりました！
- ・高校生のグループが一生懸命にとりくんでいるところが良かった。
- ・自然は放置することではなく適度に人が入って手入れすることの重要性を再確認しました。
- ・地域ブランドは「つくるもの」。  
「思い」を育てる教育。
- ・人と繋がる。今の若者が未来を救う。
- ・百間川を中心とした連携
- ・有機的につながれたと思う。他グループとのコラボができそう！
- ・リサイクルに関して、もっと知りたいと考え、ボランティアなどにも参加していきたいです。
- ・今までこういった企画に触れることがなかったが、高校生から老人まで幅広い年齢層の方が参加しており、今からでも遅くないなと思った。

・「人手が足りないから出来ない」と思っていたこともここに集まっている方々の協力を保てばできそうなことはあるのだなと実感した。

・基調講演のお話とても参考になりました。岡山にもCSR活動を積極的に入れている企業さんがこんなにいることを初めて知りました。

・岡山でも、こんなにエコ活動しているのに驚いた。身近なものをリメイクするのは参考になった。

・各地域に合った活動がさらに発展して行く予感を強く感じました。

・教育現場からの参加が増えてほしい

・協働ミーティングが良かった！岡山という限定エリアだからこそ効果的だと思った。

・自然のあたたかさは人が作っていることにびっくりしました。もっと自然に触れるように身近にできるようしたいです。

・環境教育にも様々な見方があると感じた。

・心が人を動かすということを再確認した。

・子どもの頃に自然に触れる経験、活動を十分にすることが、持続可能な社会の実現に向けて重要な改めて感じた。心を揺り動かすような感動を与えるよう活動を工夫していきたいなと思う。

・自分の職場だけにいては得られない事を知ることができた。人とのつながりは大切なことだと改めて感じた。

・若手の環境教育ミーティング（3年後）。

## Q. 今回のミーティングで出会った / つながった人数は何人ですか？

6～10人の方々とつながった人が最も多い、平均で11.6人の方々とつながったと回答があった（次ページ、図10）。また、そのつながった方々との協働のきっかけについて、54%の方が「はい」と回答した（次ページ、図11）。

### 【具体的な協働 一部抜粋】

- ・2016年環境教育ミーティングで出展
- ・アスエコさんへ出前講座の依頼
- ・環境活動に携わる若手ネットワークを構築
- ・広域中国地方ネットワーク
- ・産廃に関する学習プログラム
- ・出前講座に来ていただく予定をします。
- ・部活として部員あるいは大学に呼びかけ、林業体験 or 森を楽しむ活動をします。
- ・百間川のツアーガあれば参加・協力したい。

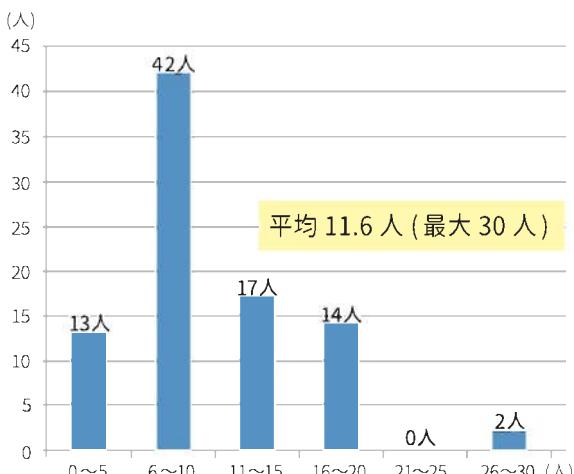


図10:出会った / つながった人数は？

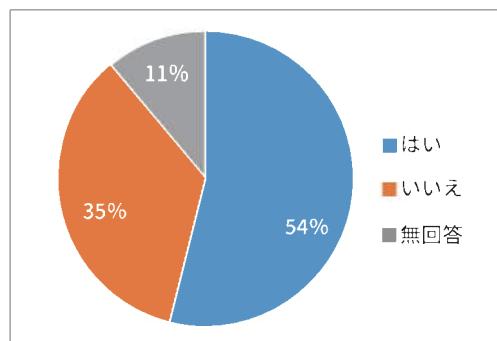


図11: その方々と協働のきっかけはできましたか？

## ●次回の開催に向けて

### Q. 開催時間（期間）について、どのくらいが参加しやすいですか？

- 開催時間（期間）については、半日が 24%、1 日が 68%、1 泊 2 日が 8% となった（図 12）。

### Q. 内容について、どんな内容（もしくはテーマ）や進め方をやってみたいですか？

- 内容や進め方については、「講義＋ワークショップ」が 59% で最も多く、「ブース展示」32%、「ワークショップ」14%、「講義」5% の順となった（図 13）。

#### 【テーマについて 一部抜粋】

- ビジョンづくり
- ネットワークづくり
- 協働学習の仕組み
- 学習カリキュラム、プログラムの作成
- 企業を含めた協働
- 協働（市をまきこんだ）のノウハウについて共有したい
- 学校でできる環境保全活動、大学と街をつなげる環境保全
- 各市町村の環境担当者（行政の）をお呼びしてシンポジウムをするとおもしろい
- どんな未来を残したいか？
- 見て触って楽しもう！百間川ツアー
- 私に家庭ができるコト（水・ゴミ・自然（活用））
- 今回とおなじでいい

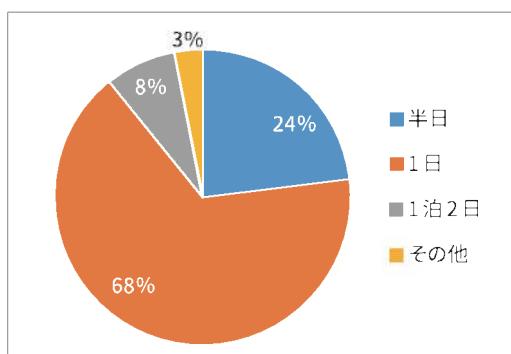


図 12: 開催時間（期間）はどのくらいが参加しやすいですか？

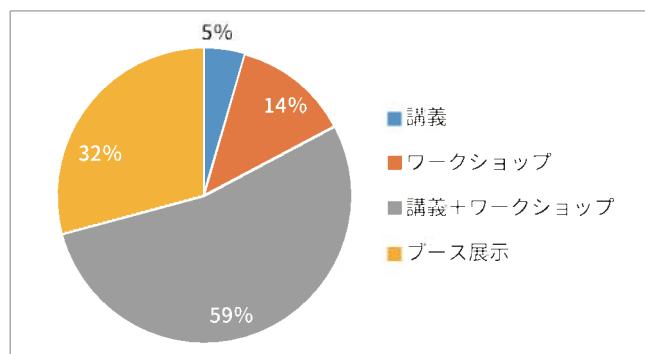


図 13: どんな内容や進め方をやってみたいですか？

Q. 本ミーティングを含め、「かんきょうひろば」に対するご意見やご要望をお聞かせください。

【一部抜粋】

- ・昨年、昨年と異なる参加者が多くて、内容もよりよくなっているので(進行方法など)、素敵な出会いや学びあいができました。ありがとうございました。
- ・色々な情報を共有できてありがとうございました。環境学習を自然とのかかわりというだけでなく、地域で子どもたち(生徒)を育てるとりくみとして活用していけたらいいなと感じました。学校のまわりの地域にもまだまだ大きな学習の糸口があると感じました。
- ・学校関係者がもっと参加できるようにしていくことが今後必要になってくる。
- ・学校現場からの参加がやはりまだ少ないな…と感じました。エコスクールの表彰校もその学校からもう少しとか、来年度表彰されそうなところはぜひ…とか動員をかけるぐらいの方向でもよいのかとも思いました。教員…特に若手を取り込んでいかなければつながっていかないと。
- ・将来へ向けたすばらしいプロジェクトだと思います。今回の私のように“初めて”的な方を増やせるといいですね。本日は大変お世話になりました。
- ・第1回目に続いて2回目の参加でしたが運営や内容がとてもバージョンアップしていてすごいなと思いました。次回も楽しみにしています！
- ・立場の違う人と話をすることで気付くことがあります。引き続きの実施と、このミーティングの提案の実現化をぜひおねがいします。
- ・ブースを時間削ったのは良かった。ワークショップを長くとりたい。参加申込のとき記入するデータをもとに名刺のようなものを作ってほしい、交換できるように。ネット掲示板がほしい。Facebookなど。

・いろいろな方と知り合うことができ、多くの示唆を頂きました。1日というスケジュールでは、協働ミーティングの時間の確保が難しいかもしれません、提案者の方や周りの方と話す(交流する)時間がもう少しあればと思いました。

・屋外でのミーティングを実施したい。

・様々な方をつなぐ広場は単に環境話のミーティングではなくて、まさにESD実践ワークショップだと思います。これからも素晴らしい講師の方をご招待して開催してほしい。

・もっと多くの高校生が参加できる工夫をお願いしたい。

・活動が個々のテーマや地域に限定された感覚を受けた。より大きな環境教育の本来の意義・目的に立ち戻れるような活動を期待します。

・今後も色々な立場・色々な地域の方々が多く参加されるミーティングが続いてゆきますよ～に。「かんきょうひろば」の登録者がもっと増えることを期待します。

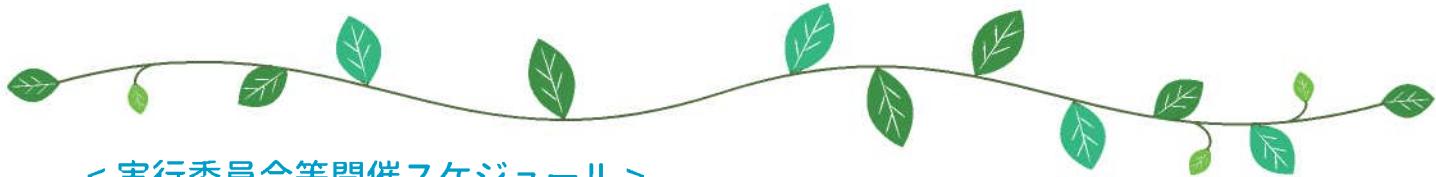
・ぜひこれからもこのような機会をいただきたいです。今日はありがとうございました。できれば全過程に参加できる休日に開いてほしいです。

・大変参考になりました。香川県も岡山県に負けないよう環境教育を進めていきたいのでまた色々教えてください。今日の盛り上がりを香川県に持ってきてかえりたいです。

アンケートにご協力  
ありがとうございました！



# スケジュール & 実施プロセス



## <実行委員会等開催スケジュール>

4月 24日 (金) 17:00 - 19:00

第1回実行委員会 (事業概要説明、テーマや構成の検討)

5月 14日 (木) 17:00 - 19:00

第2回実行委員会 (テーマの構成の決定、チラシ(案)作成)

5月 22日 (金) 広報・参加者募集開始

8月 7日 (金) 17:00 - 19:00

第3回実行委員会 (進捗状況の確認、詳細・当日役割分担の確認)

8月 18日 (火) 10:00 - 17:00

第3回おかやま環境教育ミーティングの開催

8月 27日 (木) 17:00 - 19:00

ミーティングのふりかえり、次回の開催に向けて

2月 13日 (土) 13:00 - 17:00

フォローアップ (実現させる企画書をつくるワークショップ)



## <実行委員会メンバー>

- ・環境団体 1名
  - ・NPO 2名
  - ・民間企業 3名
  - ・公益財団 1名
  - ・行政 2名
- (岡山県新エネルギー・温暖化対策室 1名、岡山市 ESD 世界会議推進局 1名)
- ・学校関係 4名
  - (小学校教員 1名、中学校教員 1名、高等学校教員 1名、教育委員会 1名)
  - ・大学生 1名
  - ・事務局 3名 (環境学習センター「アスエコ」3名)

